

イノベーションに情熱を。
ひとに思いやりを。



株主通信

Vol.18

2016年11月発行号



第一三共株式会社

証券コード 4568

Contents & Topics

2016年
3月

- 第4期 中期経営計画を発表

P3 解説: 第4期 中期経営計画と
経営課題の最新の取り組み状況

4月

- 旭川医科大学との毛細血管幹細胞に関するオープンイノベーション研究を開始

5月

- Celixir社から虚血性心不全の細胞治療薬「ハートセル」を導入(国内) **P6**
- アステラス製薬、武田薬品と健康成人を対象としたバイオマーカーのデータ基盤構築に関する共同研究契約を締結
- 2015年度 決算発表

6月

- FDAによる制吐剤配合麻薬性鎮痛剤「CL-108」承認申請の受理
- **第11回定時株主総会を開催**
- 自己株式取得を決議 **P6**
- Servier社に抗凝固剤「エドキサバン」のカナダにおける販売活動を行う権利を許諾 **P4**

P10

定時株主総会の
開催報告



7月

- Amgen社から9品目のバイオ後続品を導入(国内) **P5**
- 無担保社債を発行
- 2016年度 第1四半期 決算発表

8月

- 抗てんかん剤「ビムパット」(一般名:ラコサミド)の新発売及び効能追加に係る一部変更承認申請(国内) **P5**

9月

- 社会的責任投資指標「DJSI Asia Pacific」に7年連続で選定 **P9**
 - 抗RANKL抗体「デノスマブ」の関節リウマチに係る効能追加を承認申請(国内)
 - 本態性高血圧症患者を対象としたミネラルコルチコイド受容体拮抗薬「エサキセレノン(CS-3150)」のフェーズ3試験を開始(国内)
 - がん免疫治療薬の研究開発を目的としたZymeworks社とのバイスペシフィック抗体*の共同探索研究及びクロスライセンス契約を締結
- ※抗体1分子中の2つの抗原結合部位に、異なる種類の抗原が結合できる抗体医薬

10月

- HER2に対する抗体薬物複合体「DS-8201」のフェーズ1試験結果を欧州臨床腫瘍学会で報告 **P4**
- FLT3-ITD阻害剤「キザルチニブ」の急性骨髄性白血病(一次治療)のフェーズ3試験を開始 **P4**
- Inspirion社からオピオイド鎮痛薬(乱用防止製剤)を導入 **P5**
- **2016年度 第2四半期 決算発表**

11月

P7 第2四半期
決算ハイライト



12月

- R&D説明会「R&D Day」開催(予定)

2017年
1月

- 2016年度 第3四半期 決算発表(予定)

2月

- 個人株主説明会 大阪開催(予定) **P10**

3月

株主の皆様へ



代表取締役社長 兼 CEO

中山 譲治

株主の皆様には日頃より当社の経営に温かいご支援、ご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

今回の株主通信では、2016年3月に発表した**第4期中期経営計画**を中心に、4月以降の経営課題の取り組み状況と直近の業績をご報告します。

医薬品業界を取り巻く**環境**を俯瞰しますと、世界的に**医療費を抑制**する動きが強まり、費用対効果の重視及び公的・民間保険機関の影響力が高まってきています。また、**病院・専門医**で多く処方される薬剤の市場が成長してきていること、**SOC**(Standard of Care: 現在の医学では最善とされ、広く用いられている治療法)を変革する先進的な新薬の大型化がみられるようになってきていること、そして薬事規制と保険制度などの違いにより**国・地域ごと**に薬剤別市場シェアが異なっていることなどが、傾向として挙げられます。

日本では、ジェネリック薬の推奨など、医療費抑制策が進められる一方で、イノベーションを奨励する動きもあります。米国では、世界最大の市場であり、最先端のサイエンスに基づく薬剤・治療法が生まれる土壌があり、今後も安定成長すると見込まれています。欧州では、市場が低迷しているものの、費用対効果で高く評価される医薬品には、成長のチャンスがあります。このような**各市場の特徴**を背景に、今後も、国・地域ごとに使われる薬剤が異なっていくものと考えております。

疾患領域では、がんによる死亡率が圧倒的に高く、世界の医薬品の治療領域別の市場規模では、がん治療薬の年間売上が9.5兆円と極めて大きく、成長が続いています。患者さんの治療ニーズは、未だ十分満たされておらず、今後も、**がんを中心とするスペシャルティ領域**(病院・専門医で主に処方される医薬品)のニーズが拡大していくと考えられます。

こうした環境変化に加え、これまでの当社の研究開発実績や現時点のパイプライン(開発中の新薬候補化合物)をベースに検討した結果、10年後に「**がんに強みを持つ先進的グローバル創薬企業**」となることを「**2025年ビジョン**」として掲げました。

具体的には、2025年のがん事業を中心とする**スペシャルティ領域**が中核事業となっており、各国市場に適合した**リージョナルバリュー**製品を豊富に持ち、**SOC**を変革する先進的な製品・パイプラインが充実し、同時に**効率的な経営**による**高い株主価値**を実現した姿を目指しています。

「2025年ビジョン」に向けて、これまでの高血圧などの循環器領域を中心とした現在の事業から、がんを中心に専門医が処方するスペシャルティ領域で、今までのSOCを変革する先進的な製品・パイプラインを持つグローバル企業に転換していきます。同時に、画一的なグローバル展開を改め、各国市場に適合したリージョナルバリュー製品を充実する方向に転換していきます。また、自前主義を脱して、これまで以上にアライアンスを拡大する方向に転換し、**持続的利益成長**を実現していきます。

今回の第4期中期経営計画は「2025年ビジョン」に向けた**転換**を実現するための5カ年計画と位置付け、2つの経営課題「**2017年度パテントクリフ***の克服」と「**持続的成長基盤の確立**」を着実に推進していきます。

株主の皆様の引き続きのご支援をお願い申し上げます。

※特許満了に伴う売上・利益の減少

2025年ビジョン



第4期 中期経営計画(2016年度-2020年度)

第4期中期経営計画は「2025年ビジョン」に向けた転換を実現するための5カ年計画と位置付け、2つの経営課題「2017年度パテントクリフの克服」と「持続的成長基盤の確立」に取り組みます。

- **経営課題1** 当社グループの売上収益全体の約3割を占める主力製品、高血圧症治療剤「オルメサルタン」などの特許満了による売上と利益の減少(パテントクリフ)と日本における薬価改定による落ち込みを克服し、2017年度の売上収益9,400億円、営業利益1,000億円の目標達成を目指します。
- **経営課題2** 2020年度の売上収益は1兆1,000億円、営業利益1,650億円を目指し、その結果として、ROE8%以上を実現します。また、2020年度時点で5年以内に市場投入し、ピーク時の売上収益1,000億円以上を期待できる後期開発品を3~5品目保有することを目指します。

経営課題1 2017年度パテントクリフの克服

- 売上回復の取り組み: 既存主力製品の成長加速
- 利益回復の取り組み: コスト削減効果

経営課題2 持続的成長基盤の確立

- 2020年度の目標達成のための事業戦略

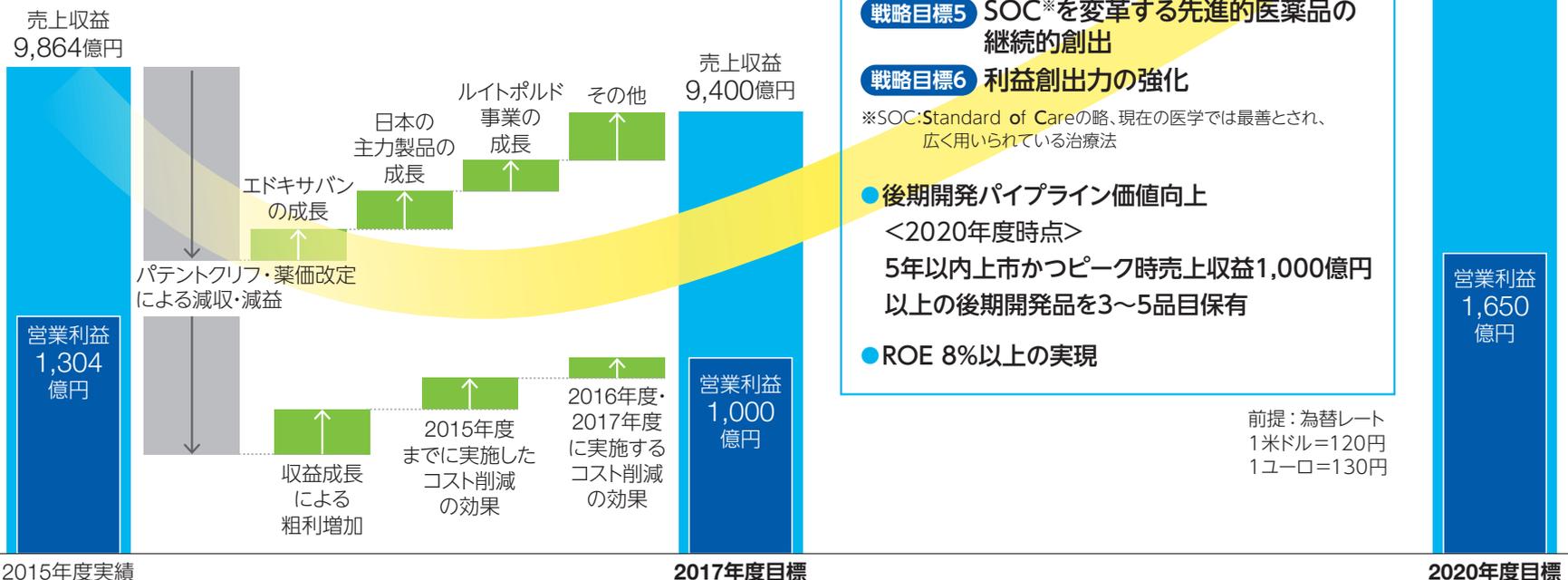
- **戦略目標1** エドキサバンの成長
- **戦略目標2** がん事業の立上げ
- **戦略目標3** 日本No.1カンパニーとして成長
- **戦略目標4** 米国事業の拡大
- **戦略目標5** SOC*を変革する先進的医薬品の継続的創出
- **戦略目標6** 利益創出力の強化

※SOC: Standard of Careの略、現在の医学では最善とされ、広く用いられている治療法

- 後期開発パイプライン価値向上
<2020年度時点>
5年以内上市かつピーク時売上収益1,000億円以上の後期開発品を3~5品目保有

- ROE 8%以上の実現

前提: 為替レート
1米ドル=120円
1ユーロ=130円

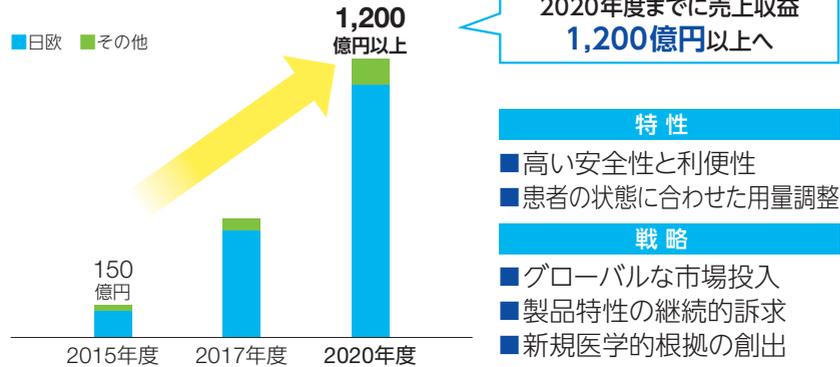


戦略目標1 エドキサバンの成長

エドキサバン(日欧製品名「リクシアナ」)の成長を加速し、2020年度の売上収益1,200億円以上の主力品に育てます。

抗凝固剤エドキサバンは高い安全性と利便性(1日1回)を併せ持ち、心房細動及び静脈血栓塞栓症の患者さんのニーズに応じていく薬剤です。中長期の成長の柱へ育てるために、グローバルな販売戦略の着実な展開、製品力強化を目的とした新規エビデンスの創出を進めていきます。

■ 中長期成長の柱へ育成



News アップデート

★市場を上回る順調な売上の伸長 日本🇯🇵
 売上の対前年同期比^{※1}<2016年4-9月度累計> **270.4%**
 (参考:新規経口抗凝固剤市場 135.1%)

★新規処方患者シェアの拡大 日本🇯🇵
 新規処方患者シェア^{※2}<2016年9月度> **28.5%**(参考:前年同月度17.1%)

2015年度までの販売国
 日本、米国、スイス、
 英国、ドイツ、
 アイルランド、オランダ、韓国

●販売国の拡大
 イタリア🇮🇹、スペイン🇪🇸、台湾🇨🇲 (2016年9月)、
 ベルギー🇧🇪、香港🇭🇰 (2016年10月)

○販売承認申請中の国
 ブラジル🇧🇷、タイ🇹🇭、中国🇨🇳、トルコ🇹🇷、カナダ🇨🇦

▲アライアンスの拡大
 カナダ🇨🇦 Servier社と販売提携契約を締結(2016年6月)

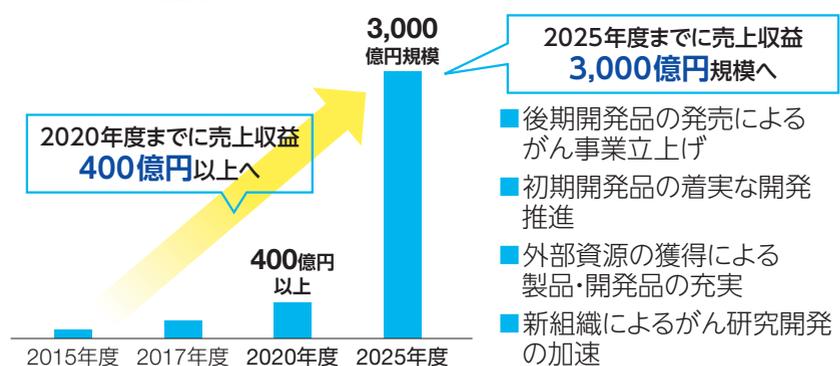
2015年度までの販売提携
 Merck社の欧州子会社と
 の欧州における販売提携

※1 IMS-JPM(2016年4-9月)Copy right 2016 QuintilesIMS 無断転載禁止 ※2 Medi-Trend(2016年9月、2015年9月)

戦略目標2 がん事業の立上げ

後期開発品の発売によってがん事業を立上げ、初期開発品の着実な開発推進、外部資源の獲得による製品・パイプラインの充実、新組織によるがん研究開発の加速を図り、2020年度に売上収益400億円以上、2025年度には中核事業として3,000億円規模の事業に育てます。

■ パイプライン拡充



News アップデート

FLT3-ITD阻害剤「キザルチニブ」の急性骨髄性白血病の一次治療のフェーズ3試験を開始

2016年10月、FLT3-ITD阻害剤「キザルチニブ」について、FLT3-ITD変異^{※1}を有する急性骨髄性白血病の一次治療(新規に診断された患者さんを対象とする治療)の適応取得を目的とした米国、欧州、アジア等におけるグローバルフェーズ3試験を開始しました。なお、二次治療(再発性・難治性の患者さんを対象とする治療)のグローバルフェーズ3試験については、2017年前半までに独立データモニタリング委員会による中間解析が実施される予定です。

HER2に対する抗体薬物複合体「DS-8201」のフェーズ1試験結果を欧州臨床腫瘍学会で報告

2016年10月、HER2^{※2}に対する抗体薬物複合体(ADC)^{※3}である「DS-8201」のフェーズ1試験の結果を欧州臨床腫瘍学会で報告し、ハイライト演題として取りあげられました。報告データは、乳がん及び胃がんの患者さんを対象とするパート1試験の結果で、DS-8201の用量制限毒性は観察されず、十分な忍容性が確認されました。また、T-DM1^{※4}の前治療を受けた患者さん及びHER2発現の低い患者さんを含む予備的な有効性評価、及び薬物動態プロファイルにおいて良好な結果が示されました。

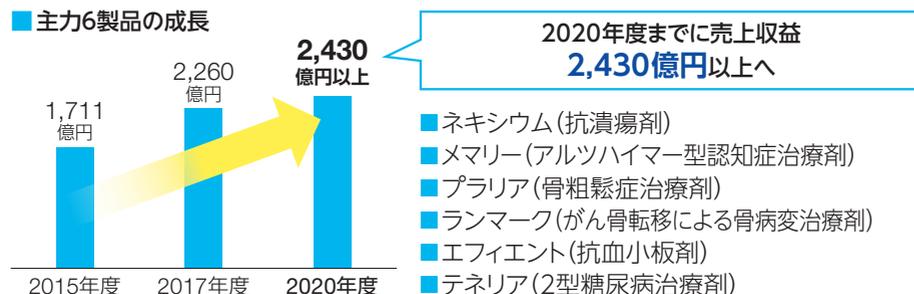
※1 FLT3-ITD変異:急性骨髄性白血病の約30%の患者さんに認められる遺伝子の変異
 ※2 HER2:細胞表面に存在する糖タンパク。正常細胞において細胞の増殖、分化などの調節に関与しているが、何らかの理由でHER2遺伝子の増幅や遺伝子変異が起こると、細胞の増殖・分化の制御ができなくなり、細胞が悪性化すると思われる。
 ※3 抗体薬物複合体(ADC):抗体と低分子医薬を適切なリンカーを介して結合させた医薬群
 ※4 T-DM1:トラスツズマブにエムタンシンを結合させた抗体薬物複合体

第4期 中期経営計画

戦略目標3 日本No.1カンパニーとして成長

新薬事業の強みを活かし、そこにジェネリック医薬品、ワクチン、OTC医薬品の3つの事業を加え、名実ともに日本No.1カンパニーとして成長することを目指します。

新薬事業においては、営業力に対する外部からの高い評価が導入品の獲得につながり、自社製品とともに導入品も育成することにより、さらに外部評価を高めるという好循環によって、日本事業の継続的な成長を実現します。主力品のネキシウム、メモリー、プラリア、ランマーク、エフィエント、テネリアが伸長するとともに、各種適用拡大も含めて、この6製品合計で2,430億円以上へ売上収益を伸ばしていきます。



News アップデート

抗てんかん剤「ビムパット」の新発売／効能追加に係る承認申請

2016年8月、当社とユーシービージャパン株式会社は、抗てんかん剤「ビムパット」(一般名:ラコサミド)を国内で新発売しました。ビムパットは、既存の抗てんかん薬とは異なる新しい作用機序により、神経細胞の過剰な興奮を抑制する薬剤です。また、同年8月にてんかん患者の部分発作に対する単剤療法の効能・効果を追加する承認申請を行っています。



Amgen社からのバイオ後続品(9品目)の導入

2016年7月、当社は米国Amgen社とアダリムマブ、ベバシズマブ、トラスツズマブを含む後期開発ステージにあるバイオ後続品*(9品目)の日本における商業化に関する独占契約を締結しました。

※バイオ後続品:既に新有効成分含有医薬品として承認されたバイオテクノロジー応用医薬品と同等/同質の品質安全性、有効性を有する医薬品として、異なる製造販売業者により開発される医薬品

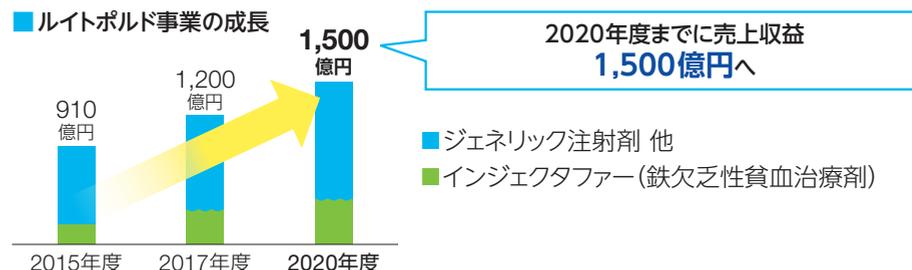
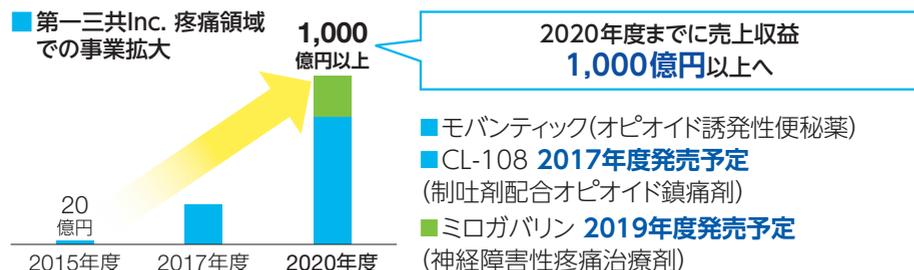
医師からのMR評価No.1獲得(株式会社アンテリオによる調査)

2015年度のMR活動に関する総合評価において、全回答医師から1位の評価をいただきました。また、循環器内科医師からも1位の評価をいただきました。両評価ともに、2012年度から4年連続で1位の評価をいただいています。

戦略目標4 米国事業の拡大

第一三共Inc.では、疼痛領域での事業拡大を図ります。

2015年から販売を開始しているモバンティックに加え、CL-108を2017年度、ミロガバリンを2019年度に発売し、2020年度には第一三共Inc.の疼痛領域を売上収益1,000億円以上の事業に育てることを目標としています。



News アップデート

Inspirion社からのオピオイド鎮痛薬(乱用防止製剤)の導入

2016年10月、米国Inspirion社からモルヒネ徐放性製剤MorphaBond(モルファボンド)を含む、オピオイド*鎮痛薬2剤を導入しました。MorphaBondは他の薬物療法では鎮痛効果が不十分な重度の慢性疼痛の管理に使用される、乱用防止特性を備えたオピオイド鎮痛薬です。

※オピオイド:麻薬性鎮痛薬

戦略目標5 SOCを変革する先進的医薬品の継続的創出

がんを重点領域と定め、疼痛、中枢神経系疾患、心不全・腎障害、希少疾患を次世代領域と位置付け、パートナーリング、オープンイノベーション^{※1}、トランスレーショナルリサーチ^{※2}を活用してSOC^{※3}を変革する先進的医薬品創出を目指します。

重点領域	がん(がん免疫を含む)			
次世代領域	疼痛	中枢神経系疾患	心不全・腎障害	希少疾患

- ※1 オープンイノベーション: 外部の開発力やアイデアを活用することで自社の課題を解決し、革新的で新しい価値を生み出す手法
 ※2 トランスレーショナルリサーチ: 新しい医療を開発し、臨床の場で試用してその有効性と安全性を確認し、日常医療へ応用していくまでの一連の研究過程
 ※3 SOC: Standard of Careの略、現在の医学では最善とされ、広く用いられている治療法

News アップデート

Celixir社からの虚血性心不全の細胞治療薬「ハートセル」の導入

2016年5月、ノーベル賞受賞学者であるエバンス博士がCSO^{※1}をつとめる英国Celixir社(旧社名 Cell Therapy社)細胞治療薬「ハートセル」を導入しました。ハートセルは虚血性重症心不全に対する他家細胞(本人以外の細胞)を用いた治療薬として開発中で、心筋に投与することで、虚血性心不全に対する治療効果が期待されています。



DS-1647(G47Δ)の先駆け審査指定制度における指定獲得

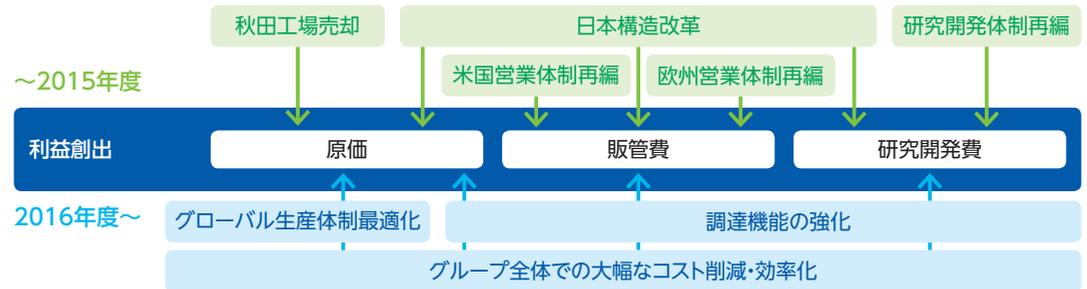
2016年2月、東京大学医科学研究所 藤堂具紀教授と共同申請したがん治療用ウイルス「DS-1647」(G47Δ)が、医療機器・体外診断用医薬品・再生医療等製品の先駆け審査指定制度^{※2}の対象品目に指定されました。

- ※1 CSO: チーフ・サイエンス・オフィサー
 ※2 先駆け審査指定制度: 生命に重大な影響がある重篤な疾患等に対して極めて高い有効性が期待される医薬品を指定し、世界でも最先端の治療薬を最も早く日本の患者に提供することを目指す制度

戦略目標6 利益創出力の強化

利益創出力の強化として、2015年度までに実施した事業再編などの取り組みに加え、今回の中期経営計画期間中に、グローバルレベルでの生産体制最適化、調達機能の強化を進めます。

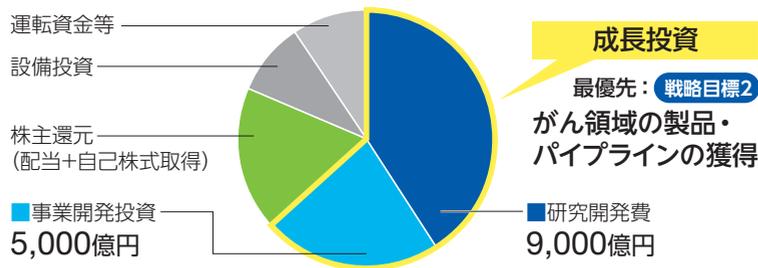
同時に、グループ全体にわたる大幅なコスト削減・効率化を行い、売上原価、販管費、研究開発費の見直しを進め、利益創出力の強化を図るよう、全社を挙げて取り組んでいきます。



戦略目標実現のための成長投資

戦略目標の実現のため「がん領域の製品・パイプラインの獲得」を最優先させ、研究開発に9,000億円、事業開発に5,000億円の成長投資を行う予定です。

5カ年計画の原資 約2.2兆円



株主還元方針

総還元性向を期間中100%以上、配当金は普通配当を年間70円以上を目指します。配当は安定的に行い、自己株式取得を機動的に実施します。

安定的な配当
(年間70円以上)

機動的な
自己株式取得

総還元性向[※]
100%以上

※総還元性向
=(配当+自己株式取得総額)
/当期利益(親会社帰属)

News アップデート

2016年度 普通配当の増配方針

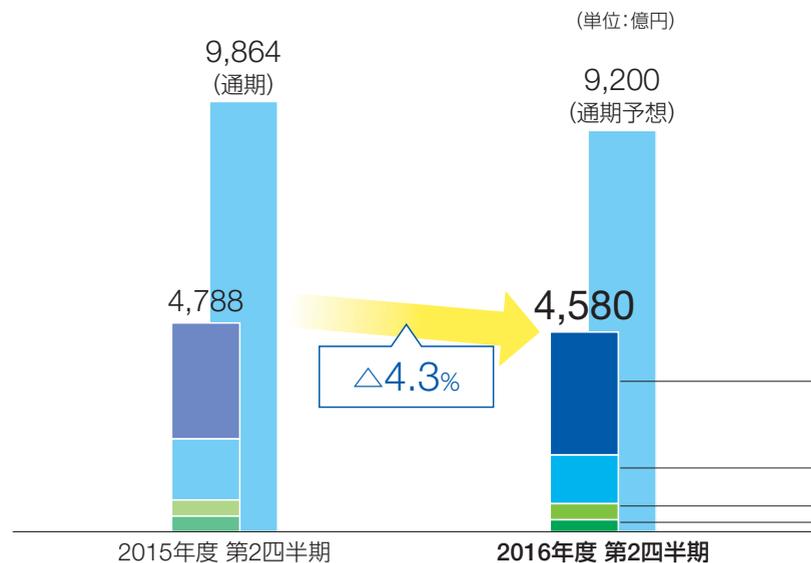
2015年度は年間の1株当たり普通配当60円に加え、10円の記念配当を実施いたしました。2016年度は年間の1株当たり普通配当を70円(中間配当・期末配当 各35円)へと10円増配する方針です。

自己株式の取得

2016年6月20日の取締役会において、自己株式の取得を決議し、6月21日から10月24日にかけて、当社普通株式2,025万株を取得しました。(取得価額:500億円)

決算ハイライト 2016年度 第2四半期

売上収益



2016年度第2四半期(2016年4月1日～9月30日)の売上収益は、4,580億円(前年同期比208億円、4.3%減)となりました。

日本の売上収益は、薬価改定及びジェネリック医薬品の処方拡大による影響があったものの、主力品の伸長等により、増収となりました。

米国の売上収益は、主力品の減収及び円高の進行による為替の影響等により、減収となりました。

欧州及びその他の国・地域の売上収益は、主力品が伸長したものの、為替の影響等により、減収となりました。

なお、売上収益全体に係る為替の影響額は287億円となりました。

〈為替レート〉	2015年度 第2四半期	2016年度 第2四半期	増減
米ドル/円	121.80	105.35	△16.45
ユーロ/円	135.07	118.22	△16.85

主要ビジネスユニットの売上収益推移

(単位: 億円)

	2015年度 第2四半期	2016年度 第2四半期	増減率
日本			
日本カンパニー+ワクチン事業	2,278	2,390	4.9%
ネキシウム(抗潰瘍剤)	387	420	8.7%
オルメテック(高血圧症治療剤)	362	349	△3.6%
メモリー(アルツハイマー型認知症治療剤)	205	234	14.3%
ロキソニン(消炎鎮痛剤)	244	188	△22.8%
テネリア(2型糖尿病治療剤)	53	118	121.2%
リクシアナ(抗凝固剤)	54	115	114.4%
エフィエント(抗血小板剤)	18	49	177.5%
第一三共ヘルスケア	246	322	30.7%
米国			
第一三共Inc.	934	703	△24.7%
オルメサルタン(高血圧症治療剤)	571	367	△35.8%
ウェルコール(高コレステロール血症治療剤・2型糖尿病治療剤)	242	195	△19.5%
エフィエント(抗血小板剤)	106	108	2.2%
ルイトポルド	464	417	△10.0%
ヴェノファー(鉄欠乏性貧血治療剤)	160	139	△13.4%
インジェクタファー(鉄欠乏性貧血治療剤)	79	111	40.7%
欧州			
第一三共ヨーロッパGmbH	392	370	△5.8%
オルメサルタン(高血圧症治療剤)	302	247	△18.4%
エフィエント(抗血小板剤)	22	42	90.3%
リクシアナ(抗凝固剤)	2	33	-
その他			
アジア・中南米	427	340	△20.4%

当社WEBサイトの「決算短信・説明会資料」のページで、詳細な決算情報を掲載しています。



TOP>株主・投資家の皆様>IRライブラリ>
決算短信・説明会資料

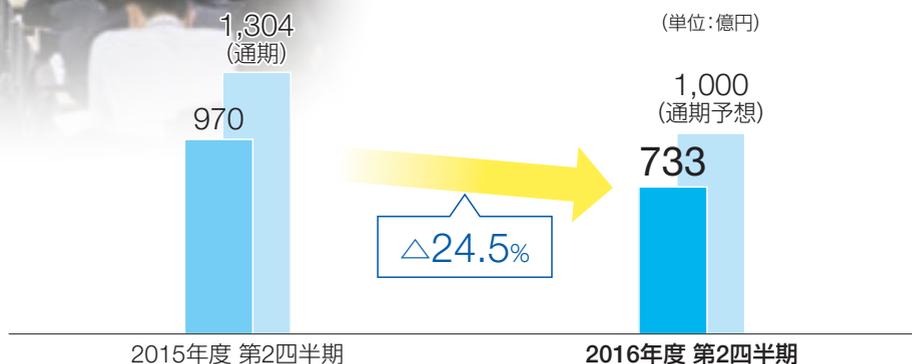
第一三共 決算短信・説明会資料 検索



右のQRコード
から直接アクセス
できます。



営業利益



営業利益は、733億円(前年同期比237億円、24.5%減)となりました。

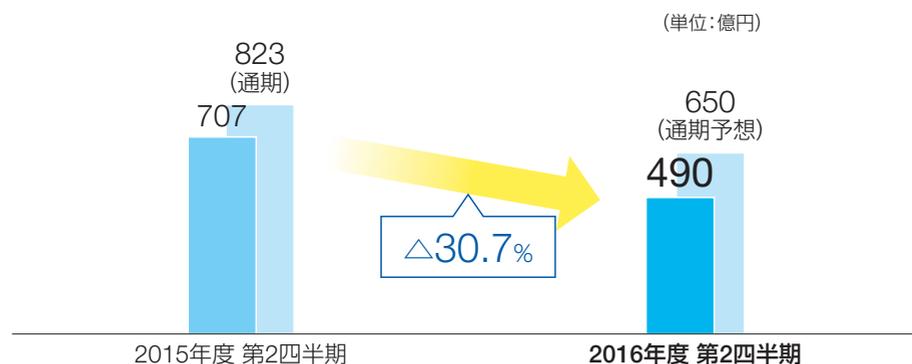
売上総利益は、売上収益の減収に加え、前年同期に秋田工場の事業譲渡に伴う子会社売却益及び有形固定資産売却益が売上原価に含まれていたこと等から、前年同期に比べ、191億円の減益となりました。

販売費及び一般管理費は、前年同期に遊休資産の売却に伴う有形固定資産売却益が含まれていたことに加え、当期に事業再編費用の引当を行ったものの、前期末までに実施した営業体制再編による経費削減効果及び為替の影響等により、前年同期に比べ、28億円減少しました。

研究開発費は、為替の影響により減少したものの、研究開発プロジェクトの進行に伴い、前年同期に比べ、74億円増加しました。

なお、営業利益に係る為替の影響額は71億円となりました。

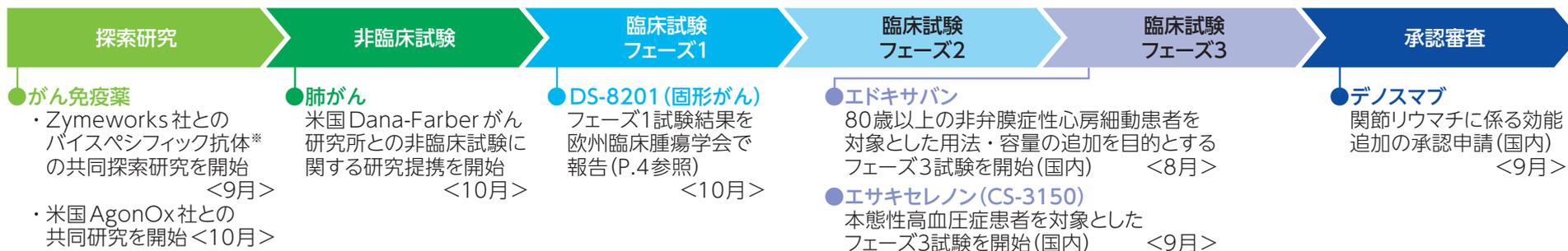
当期利益(親会社帰属)



親会社の所有者に帰属する四半期利益は、490億円(前年同期比217億円、30.7%減)となりました。

営業利益の減益に加え、外貨建の営業債権に係る為替差損の増加、及び試験研究費控除が減少したことによる法人所得税費用の増加があったものの、前年同期の金融費用にサン・ファーマ株式売却手数料が含まれていたこと等から、営業利益に比べ、小幅な減益となりました。

2016年度の研究開発パイプラインの主な進捗



*バイスペシフィック抗体: 抗体1分子中の2つの抗原結合部位に異なる種類の抗原が結合できる抗体医薬

コーポレートガバナンス

当社は、経営環境の変化に対して、より迅速かつ機動的に対応できる経営体制を構築するとともに、法令の遵守と経営の透明性を確保し、経営と執行に対する監督機能の強化を重視しています。

第一三共コーポレートガバナンスの特徴

POINT 1	●取締役の経営責任の明確化 ●経営と執行に対する監督機能の強化	⇒	●取締役の任期は1年 ●取締役10名中4名は社外取締役
POINT 2	●経営の透明性確保	⇒	●社外取締役のみで構成する指名委員会・報酬委員会を設置
POINT 3	●経営の適法性及び健全性の監査	⇒	●社外監査役2名を含む4名で構成される監査役会を設置
POINT 4	●コーポレートガバナンスの一層の強化	⇒	●当社独自の独立性判断基準を制定
POINT 5	●適正かつ迅速な経営の意思決定と業務遂行	⇒	●執行役員制度を採用



社外取締役 福井 次矢	社外取締役 足立 直樹	取締役 専務執行役員 藤本 克巳	取締役 専務執行役員 齋 寿明	取締役 専務執行役員 東條 俊明	常勤監査役 渡辺 一幸	社外監査役 片桐 裕
社外取締役 戸田 博史	社外取締役 宇治 則孝	代表取締役 副社長執行役員 廣川 和憲	代表取締役 社長 中山 譲治	代表取締役 副社長執行役員 眞鍋 淳	常勤監査役 春山 英幸	社外監査役 木村 明子

当社では、社外からの視点を十分に採り入れた取締役会体制を敷くことで、健全な企業経営を目指していますが、今回は社外取締役 宇治則孝氏のメッセージをご紹介します。

社外取締役
宇治 則孝



コーポレートガバナンスに関する議論が盛んに行われていますが、経営環境の変化に対して迅速かつ機動的に対応できる経営体制や、社外からの視点を十分に採り入れた取締役会体制は極めて重要であり、社外取締役の一員として、期待に応えるべく重い責任を感じています。

当社において、これからの中期は、パテントフリフを克服し、持続的成長基盤を確立するための変革の時期として、持続的な企業成長に向けて極めて重要な時期にあります。

第4期中期経営計画は、そういう視点で議論を重ねて策定されたものですが、計画として絵を描くこと以上にそれを着実に実行していくことが何よりも重要です。その意味で「攻めのガバナンス」の視点で責任感を持って対応していきます。

情報通信業界での経営者としての自身の経験と知見を活かして助言と提言を行い、取締役会をさらに活性化するとともに、成長に向けての適切な投資、経営幹部の選任などを含め社外の立場からガバナンスが有効に機能できるよう取り組んでいく所存です。

医療・ヘルスケアとICT(情報通信技術)の融合などにより、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献できるように企業価値を高めていくことにも関心を持っています。

環境経営の推進

当社は、環境経営委員会を設置し、地球環境への負荷軽減・調和に努め、持続可能な社会作り貢献する環境経営を推進しています。

～環境経営の取り組み例のご紹介～

すべての事業活動において、省エネルギー・省資源、温室効果ガス・廃棄物の削減に取り組み、環境負荷の低減を推進することを第4期中期環境経営方針として掲げ、高効率機器の導入などを進めています。

また、気候変動に対する責任ある企業活動として、2030年までの長期的なCO₂排出量目標を見据えた上で、第4期中期経営計画の最終年度である2020年度のCO₂排出量目標として、2015年度比5.6%削減を設定しています。

News アップデート

2016年9月、効率的な医療への貢献、気候変動戦略、及び品質保証とリコール管理で高い評価を得て、Dow Jones Sustainability Indices[※]のアジア・太平洋版Dow Jones Asia Pacificに7年連続で選定されました。

MEMBER OF
**Dow Jones
Sustainability Indices**
In Collaboration with RobecoSAM

※ 米国のS&P Dow Jones Indices社とスイスのRobecoSAM社が、経済・環境・社会の3分野より企業の持続可能性を評価している社会的責任投資指標

株主の皆様とのコミュニケーション

株主の皆様のご意見・ご要望を当社のIR活動に反映させるために実施させていただいた前号の株主通信のアンケートにご協力いただきまして、誠にありがとうございました。**お寄せいただいた株主の皆様の声**を一部ご紹介いたします。

株主総会に出席できないので、質疑を含め当日の様子を教えてください

回答 2016年6月20日(月)午前10時から約2時間にわたって開催した第11回定時株主総会には2,200名以上の株主様にご来場いただきました。

第11期事業報告、2025年ビジョンと第4期中期経営計画の説明、及び議案の上げに続く質疑応答の場面では、約1時間にわたり11名の株主様からのご質問・ご発言に対し、議長及び他の役員から回答を行いました。**会場での質疑応答**のひとこまをご紹介します。

医薬品の開発におけるビッグデータ活用の取り組みについて教えてください

回答 個人情報保護等の課題はありますが、マイナンバー制度の開始を機にマイナンバーと電子カルテまたは処方箋を組み合わせた解析を行うこと、すなわち実際の診療記録を次の医療に役立てるよう検討する活動に当社も参加しています。

希少疾病の開発に注力して欲しい

回答 製薬会社に働く者としての最大の喜びは、患者さんの病気が治り喜んでいただけることであり、希少疾病の分野は特にこの点が顕著です。

希少疾病はこれまでビジネスにならないと言われてきましたが、1つの希少疾病薬を生み出すノウハウを別の希少疾病薬の研究開発にも応用できる余地が広がってきており、今後も積極的に研究開発を進めていきます。

東京以外でも株主総会のような説明会を開催してください

回答 多くの株主様からいただいたご要望にお応えして、東京以外での株主様向けの説明会を開催させていただきます。今年度は次の通り、2017年2月に大阪で開催します。

株主様向け説明会の開催概要

日 時：2017年2月18日(土) 13:00~14:30

会 場：大阪市内のホテル

説 明 者：代表取締役社長 兼 CEO 中山 譲治

お申込み方法：同封の**緑色の応募はがき**でお申込みください。

<2016年12月21日(水)必着>

応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。

お問 合 せ 先：三菱UFJ信託銀行株式会社 株主様サポートセンター

0120-313-282(受付時間:平日 9:00~17:00)

詳細は、同封の案内をご参照ください。



希少疾病薬の研究開発の取り組み例のご紹介

当社独自の核酸医薬*技術を応用したデュシェンヌ型筋ジストロフィー(DMD)の治療薬「DS-5141」について、2016年2月からフェーズ1/2試験(臨床試験)を推進しています。

DMDは、民族差なく、新生男児の約3,500人に1人で発症するとされる極めて重篤な遺伝性希少疾患です。筋萎縮の進行により、各種運動障害がおきるとともに、最終的には心不全・呼吸不全等により、多くは20~30歳代で死に至ると知られています。重篤な症状に苦しむ患者さんのために、2020年の国内製造販売承認の取得を目指していきます。

*核酸医薬:遺伝子を構成する核酸を用いた医薬品

株主還元について、引き続き努力をして欲しい

増配も嬉しいですが、研究開発費に充てるべきではないでしょうか

回答 第4期中期経営計画期間中の成長投資と株主還元の方針について、6頁でご紹介しました。ご参照ください。

環境対策など、社会的責任活動の取り組み事例を教えてください

回答 当社の環境経営とその取り組みを9頁で一部ご紹介しました。ご参照ください。

今後も株主様からお寄せいただいたご意見をIR活動に反映させてまいります。今回号の株主通信のアンケートにもご協力ください。詳細は、裏表紙をご参照ください。よろしく願い申し上げます。

ご意見
ご要望

もっと●●
して欲しい

なぜ
●●なの？

株主様アンケートご協力のお願い

株主の皆様の声을今後の株主通信の編集やIR活動に反映するため、引き続きアンケートを実施いたします。当社に対するご要望をぜひお寄せください。
(受付期間:2016年12月1日~2017年1月15日)



はがきから

同封のアンケートはがきにご回答いただき、ご返送ください。
切手は不要です。

パソコン・タブレット・スマートフォンから

当社ホームページの「株主通信」ページにも株主様アンケートのフォームをご用意しております。



第一三共 株主通信 検索
TOP>株主・投資家の皆様>
株主通信



右のQRコード
から直接アクセス
できます。



企業インフォメーション (2016年9月30日現在)

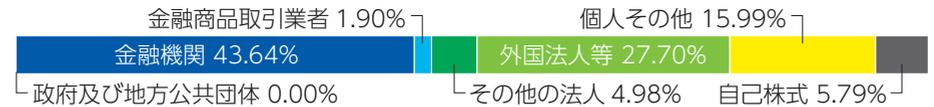
会社概要

商号	第一三共株式会社 (DAIICHI SANKYO COMPANY, LIMITED)
資本金	500億円
事業内容	医薬品等の研究、開発、製造、販売及び輸出入
従業員数	15,137名(連結)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (連絡先) 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711 (通話料無料)

株式情報

発行済株式総数	709,011,343株
株主数	100,058名

所有者別株式分布状況



WEBサイトのご案内

「株主・投資家の皆様向け経営メッセージ」の更新を2016年12月1日(木)に予定しております。ぜひご覧ください。

TOP>株主・投資家の皆様>**社長メッセージ**



右のQRコード
から直接アクセス
できます。



第一三共 検索

当社グループの企業理念や経営戦略を分かりやすくお伝えする企業レポート「バリューレポート2016」を掲載しております。こちらもご覧ください。(冊子の無料請求も承っております)

TOP>株主・投資家の皆様>**企業レポート**



右のQRコード
から直接アクセス
できます。

